

周産期死亡低減を目指したモバイル型SNS連動胎児モニターの開発（タンザニア）

メロディ・インターナショナル株式会社 代表取締役 尾形 優子

クラス分類：クラス2（日本ではクラスII）

（研究期間： 令和4年度～令和6年度）

研究目標

・タンザニアの周産期死亡率が高いのはなぜか？日本の周産期医療の技術（胎児モニターを含む）でそれが解決するのか？タンザニアの医療従事者へのインタビューや医療現場の観察、妊産婦等へのインタビューを通して、真のニーズを発掘し、そのニーズを定性的、定量的に把握し、周産期死亡低減の解決策を探る。

研究成果

・分娩時は妊婦の病院滞在時間が短くモバイル胎児モニターの効果を得られなかった。
・妊婦健診時では、モバイル胎児モニターによりリスク因子をいち早く検知し、安全な出産へ向けた指導、助言が実現した。
・多くの母親が、出産直前に病院へ駆け込むことが多いのでそれを改善することが重要。
・【結論】健診時にモバイル胎児モニターと教育アプリを連携することにより健診を担う助産師の医療支援と教育による中長期的なアプローチをモバイルクリニックにより能動的に行う機会を提供することが効果を上げるという知見を得た。

今後の展望

・分娩時のモバイル胎児モニターの活用よりも、妊婦健診での利活用が現実的である。そのため助産師の役割を中心とした、ニーズステートメントを掘り下げることが重要。
・アフリカ周辺国へのアプローチの仕方として提言。
・保健省との連携、JICAや大使館、国連への提案が重要。
・TMDAなど規制局との交渉が重要。
⇒周産期死亡の低減を目指す

【メロディ・インターナショナル】
モバイル胎児モニター
いつでもどこでも
胎児モニタリングが可能に！

【広大新福研究室】
学術に基づく実証実験
看護・助産の視点からタンザニアにおける妊婦健診の改善のため、母子保健研究を続ける

【キャストリア】
母親＋助産師向けアプリ
電子母子手帳機能と助産師の電子カルテ機能を持つアプリを開発

